

おくりもの

● 阿南市へ

● 車いす1台 (阿南図書館に設置)

県南軟式野球競技会様から公共施設における福祉サービス充実のため

● 金500万円

有限会社橋田工務店様から

阿南市奨学資金充実のため

● あななん時計

阿南南ロータリークラブ様から新庁舎備品として

● ベンチ

国際ソロプチミスト阿南様から新庁舎備品として

● 竹人形

阿南商工会議所様から新庁舎備品として

● テーブル

福井町 島 利喜太様から新庁舎備品として

● 阿南図書館へ

● 読み聞かせ用大型絵本17冊
ボランティアグループ「おはなしひろばひまわり」様

から図書館資料として

● 阿南市社会福祉協議会へ

● 金一封

富岡町 阿南商工会議所女性会様から地域福祉事業活動資金として

以上、ご寄贈いただきました。ありがとうございました。

平日延長窓口で 税証明の一部を 取り扱います

5月から、市民生活課で行っている平日延長窓口で、所得、所得課税(非課税)、市・県民税公課証明書および軽自動車税納税証明書を取り扱います。

なお、所得の申告をしていない方については、平日延長窓口での所得証明書等の申請・交付はできません。

問い合わせは 税務課庶務係

(☎22-11114)へ

マイナンバーカード 休日受取窓口の変更

マイナンバーカード(個人番号カード)の休日受取窓口を毎月第1・第2日曜日に開設していますが、5月については、新庁舎移転作業のため、14日(日)のみ開設します。(7日(日)は休みとなります)

問い合わせは 市民生活課

(☎22-11116)へ

市長通信

お元氣ですか



阿南市長
岩 浅 嘉 仁

高専の底力

「ノーベル賞をもらった人は日本に25人いるが、多くは田舎で子ども時代を過ごしている。子どもを本当にしっかりと育てるのは、田舎の方が良い」。これは、「平成の野口英世」と言われ、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村 智北里大学特別栄誉教授の言葉です。大村先生ご自身も山深い山梨県韮崎市の農家の長男として生まれ、夜間高校の教師となり、一念発起して化学者の道へと進まれました。受賞が決定し、報道陣を前に大村先生があいさつしようとして口を開きかけた時、事務方が「安倍総理からお祝いの電話です」と耳打ちすると、先生は「後でかけろ」と事務方に告げました。総理の方を待たせた硬骨漢です。人口減の時代で、経済成長を支えるには技術革新が欠かせませんが、大村先生の言葉には、「人間はあくまで自然の中にある」「自然という大いなるものに生かされているのが私たち人間であり、人間が創りだす科学技術もしかり」という哲学が語られていると思います。

さて、1年ほど前に、日本を代表する月刊誌「文藝春秋」に「『地方企業を支える高専の底力』最先端の技術と人材を供給する、知

られざる拠点」という見出しで、阿南高専に焦点を当てた記事が掲載され、大変誇らしく思いました。

つい最近も、大手新聞社系列の週刊誌に「地味にスゴイ!高専から難関大、人気企業へ!」という記事が載りました。阿南高専は、新産業都市をめざす阿南市に工業系の教育機関がどうしても必要であるとの声を受け、当時文部行政に強い影響力があった参議院議員の故三木與吉郎氏(阿波製紙株式会社社長三木康弘氏の祖父)や原 菊太郎元県知事、沢田 紋元阿南市長の三位一体となった懸命の誘致運動の成果と言われています。同校は1963年4月に仮校舎を見能林公民館と見能林中学校におき、その歴史の第一歩を踏み出しました。1966年にはほぼ今の姿となりましたが、建設費1億9228万円のうち県が63・13%、阿南市が36・87%を拠出し、阿南市は直接用地買収や登記事務にも協力し、見能林の広大な自然に囲まれた田園に、知の殿堂が誕生しました。同校の飛躍的発展の一つに、2007年に国立高専では初めて開設された寄附講座があります。この講座には、日亜化学工業株式会社による10年間で研究費約5億円余りの助成が大きく寄与しています。

「本校の学生は、中学卒業後の5年間で大学の工学部生に匹敵し、18歳、19歳から本格的な高いレベルの研究にもついていきます。事実、東大の大学院生にも負けないどころか、それ以上の研究ができる学生もいます」。前職が東京大学生産技術研究所特任准教授で現在、阿南高専客員教授の塚本史郎先生の自信に満ちた言葉を紹介しました。